

食品安全

Vol.
60

- 山本茂貴委員長 -これまでの20年とこれからの10年-
- 食品安全委員会の構成
- リスク評価のリアル -専門調査会座長に聞く-
合意が得られるまで議論を尽くす
- 食品健康影響評価
農薬の再評価が始まりました
- 「食品により媒介される微生物等に関する
食品健康影響評価の手引き」作成
- 食品に含まれる多環芳香族炭化水素のファクトシート
- 業務紹介
リスクコミュニケーション、調査・研究事業、国際協調
- 食品安全モニターになりませんか？

01

「食品安全」発刊60号

— 食品安全委員会 これまでの20年とこれからの10年 —



委員長

やまもと しげき
山本 茂貴

はじめに

食品安全委員会は本年7月に設立20周年を迎え、この広報誌「食品安全」は発刊第60号を数えることとなりました。これらはひとえに、食品安全行政にご支援とご協力をいただいている皆様と本誌読者のおかげです。心より感謝申し上げます。

この10年に寄せて

ひとつ前の節目、10周年はというと、「食品安全」は第36号（2013年（平成25年）10月発行）でした。そこから振り返りましても、実にいろいろな出来事があったと思います。

この10年、牛肉や豚肉の生食の規格基準、加熱時に生じるアクリルアミド、牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し、アレルゲンを含む食品（卵）など、私たちの食生活に密着した事項に関する評価を行ってきました。このほか、添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、汚染物質等、微生物・ウイルス、かび毒・自然毒、遺伝子組換え食品等、新開発食品、肥料・飼料等、薬剤耐性菌、などの食品健康影響評価を着実に進め、設立から20年の評価実績は延べ3,000件を超えているところです。

近年では、新型コロナウイルス感染症が世界を席卷し、コロナ禍におかれた3年間ではありましたが、いち早くWeb会議システムを導入するなどして、リスク評価のあゆみを止めることなく進めてまいりました。

これからの10年へ

食品安全委員会ができてから20年、食品の安全をめぐる状況は常に変化してきました。そして世の中の変化

に合わせて食品の安全を巡る問題は今後も様々な形で発生してくると考えています。そのような中で、「国民の健康保護が第一」という命題にしっかり応えることができるように、食品安全委員会のあゆみを進めていくことが重要です。

また、食品安全行政にリスクアナリシス（リスク分析）の考えが取り入れられてから20年になりますが、この考え方は確実に定着してきたと思います。重要なことは、今後の世の中と食品の安全に係る変化に対して、食品安全委員会としてどう応えていくか、過去20年の取り組みの糧を次の10年にどう生かしていくか、そのことをこの節目の年に大いに考え、今後のビジョンとして描くことと考えています。

最後に

食品安全委員会は20年の経験を経て、リスクアナリシスの枠組みの中で重要な役割を果たすことができていると思います。今後も食品健康影響評価を科学的根拠に基づき中立公正に行っていく所存です。

なお、現在世界的にも新しいリスク評価手法が取り入れられてきており、食品安全委員会も取り入れていくべきであると思います。また、*in silico*※手法の導入、微生物分野での予測微生物学や定量的リスク評価の取り組み、そしてデジタルトランスフォーメーションやAIなどの導入も検討していく必要があると考えています。

一方、食品安全委員会からの情報発信を含めたリスクコミュニケーションはさらに強化していくべきと考えます。また、本広報誌、Webサイト、SNS等の様々な媒体を通じた情報提供も積極的に行っていきたいと考えています。

これからも食品の安全を確保するために食品安全委員会は努力してまいります。皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

※：*in silico*（イン・シリコ）「シリコン内（コンピュータ上）で」という意味。これまでに蓄積されたデータをもとに、化学物質の作用、安全性や有効性等をコンピュータ上で予測、評価するような場合に使われる。

「食品安全」の あゆみ

広報誌「食品安全」は、内閣府食品安全委員会が発足して2年目、2004年7月に創刊されました。国民の皆様へ食品の安全について積極的に考えていただきたい。そして、食品安全委員会は食品の安全と皆様をつなぐ懸け橋となり、もっと信頼される組織にならなければ……。そんな願いを込めた創刊でした。

第1号 [創刊号]

第26号

第36号 [10周年]



2004年(平成16年)7月

食品安全委員会の組織、リスク評価の仕組み、食中毒(O157、リステリア)など



2011年(平成23年)3月

東日本大震災発生を受け、食品中の放射性物質に関する緊急取りまとめなど



2013年(平成25年)7月

委員会設立10周年を受け、業務実績やあゆみなど

第48号

第55号 [年誌へ]

第59号



2016年(平成28年)10月

委員会設立の契機となった牛海綿状脳症(BSE)国内対策の見直しに係る食品健康影響評価など



2018年(平成30年)10月

この号から年誌となり、食品安全委員会の1年の活動紹介



2022年(令和4年)7月

食品安全委員会の活動紹介に加え、巻頭特集として、委員長のインタビューや海外情報の収集といった業務紹介を掲載

02

食品安全委員会の構成

食品安全委員会は、食品の安全性を確保するため、国民の健康保護が最も重要であるという基本認識の下、規制や指導等のリスク管理を行う関係行政機関から独立して、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正にリスク評価を行う機関です。食品安全委員会は、山本委員長はじめ各分野の専門家である7名の委員から構成されています。

食品安全委員会 委員長及び委員の紹介

委員長 **山本 茂貴**

専門分野 **微生物学**

経歴 東京大学大学院農学系研究科獣医学専攻修士課程修了後、農学博士（東京大学）、国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長、東海大学海洋学部教授を経て、2017年1月より食品安全委員会委員、2021年7月より食品安全委員会委員長。



委員 **浅野 哲**

専門分野 **毒性学**

経歴 富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士前期（修士）課程修了後、医学博士（横浜市立大学）帝人株式会社医薬開発研究所グループ統括、グラクソ・スミスクライン株式会社筑波研究所マネージャー、国際医療福祉大学薬学部教授を経て、2021年7月より食品安全委員会委員。



委員 **川西 徹**

専門分野 **化学物質**

経歴 東京大学大学院農学系研究科修士課程修了後、薬学博士（東京大学）、国立衛生試験所（現国立医薬品食品衛生研究所）入所、薬理部、病理部、生物薬品部、薬品部、副所長、所長を経て、2018年7月より食品安全委員会委員。



委員 **脇 昌子**

専門分野 **公衆衛生学**

経歴 徳島大学医学部医学科卒業後、医学博士（徳島大学）。京都大学医学部臨床教授。国立循環器病センター臨床栄養部医長、地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事兼副院長兼内分泌代謝内科主任科長を経て、2021年7月より食品安全委員会委員。



委員 **香西 みどり**

専門分野 **消費者意識、消費行動（調理科学）**

経歴 お茶の水女子大学大学院家政学研究科修士課程修了後、学術博士（お茶の水女子大学）、お茶の水女子大学基幹研究院教授を経て、同大学名誉教授。2018年7月より食品安全委員会委員（非常勤）。



委員 **松永 和紀**

専門分野 **リスクコミュニケーション**

経歴 京都大学大学院農学研究科修士課程修了後、株式会社毎日新聞社記者を経て、科学ジャーナリストとして活動。2021年7月より食品安全委員会委員（非常勤）。



委員 **吉田 充**

専門分野 **食品の生産・流通（生物有機化学）**

経歴 東京大学大学院農学系研究科修士課程修了後、農学博士（東京大学）、（独）農研機構食品総合研究所食品分析研究領域長、日本獣医生命科学大学応用生命科学部教授を経て、同大学名誉教授。2018年7月より食品安全委員会委員（非常勤）。



委員会の下に16の専門調査会を設置し、専門的な検討を進めています。また、特定の分野について集中的に審議を行う必要がある場合には、ワーキンググループ（WG）を設置し検討します。

専門調査会

- 企画等専門調査会
- 添加物専門調査会
- 農業（第一～第五）専門調査会
- 動物用医薬品専門調査会
- 器具・容器包装専門調査会
- 汚染物質等専門調査会
- 微生物・ウイルス専門調査会
- プリオン専門調査会
- かび毒・自然毒等専門調査会
- 遺伝子組換え食品等専門調査会
- 新開発食品専門調査会
- 肥料・飼料等専門調査会

ワーキンググループ（WG）[2023年4月現在]

- 栄養成分関連添加物WG
- 香料WG
- 薬剤耐性菌に関するWG
- 評価技術企画WG
- ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するWG
- 有機フッ素化合物（PFAS）WG